

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0871000261
法人名	有限会社ヘルスケア一下妻
事業所名	ケアプラザうららグループホーム
所在地 (電話番号)	茨城県下妻市下妻戊34-1 (電話)0296-44-0110

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 25日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 11.9 人

(2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋2階造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1100円		

(4)利用者の概要

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名	
要介護1		名	要介護2	7	名	
要介護3	5	名	要介護4	5	名	
要介護5		名	要支援2	1	名	
年齢	平均	82歳	最低	57歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	軽部病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路に面しており、周辺には店が立ち並ぶ賑やかな場所に立地しているが、ホーム内は騒音に苛まれることなく、利用者はゆったりのおんびり過ごされている。学童保育や託児所を併設しており、子ども達とも交流がある。利用者に対する職員の対応はとて丁寧でありサービスの質の向上に向けての意欲が高い。近隣への散歩やドライブ、買物などに出かける機会が多く、利用者はとても楽しみにされている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	洗剤など注意の必要な物品の保管方法に関して、置き場所を変更したり、廊下の照明に関しても照明の数を増やす等、話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に関して会議で話し合い、職員全員で取り組み、日頃のケアに対して振り返りの機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価についてや、ホームで行われる行事の報告、利用者へのサービス内容等について報告しサービス向上にむけて討議している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置をしたり、利用者の暮らしぶりを電話で報告する際や行事で家族が来所する時、面会時などに、積極的に声をかけ聞くようにしている。苦情等があった場合は、苦情報告書に記録し、話し合いを行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており地域の環境整備に参加したり、地域のお祭りの際には、休憩所として場所を提供する等、地域との交流の機会がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本指針をホームの理念とし、ユニットごとに月の目標を掲げケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビング等に理念が掲示しており、朝礼時に唱和し職員で共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の環境整備に参加したり、地域のお祭りの際は子ども達が神輿を担いで来てくれたり、休憩所として場所を提供している。近所の方とは、散歩時、挨拶を交わしたり畑で出来た野菜をわけて頂いたり、日頃から交流の機会がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対して、振り返りの機会だと捉えており、会議では職員全体で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、ホームの行事に関してやサービス内容について報告し意見をもらい、サービス向上に活かしている。		

茨城県 ケアプラザうららグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用状況の報告やホームを運営するにあたって、意見交換したり相談できる関係が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や健康状態、金銭管理など、面会時や電話等で報告している。電話で連絡した内容については、記録されている。個人のアルバムが作成しており、行事や外出などに撮った写真が貼られており、面会時に見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしたり、家族の面会や電話連絡時、また行事参加時に積極的に働きかけ、意見や要望を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を必要最小限に抑えるために、管理者は職員の悩み事など相談に乗るなどしながら、働きやすい環境作りに努めている。新人職員には、利用者と馴染みの関係になる間、管理者と共に行動し教育している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症についての勉強会や、接遇の講習会など行っているが、外部研修への機会が、なかなか全職員に確保出来ていない。	○	職員は、ケアに対しての向上心が高いので、外部研修の機会を全職員に開示する体制作りと、研修の機会の確保に取り組んで頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、勉強会に参加し、他の事業所と交流している。また、近隣のグループホーム同士で、入居状況やカンファレンスを開催したり、相談し合う機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に、利用者や家族に会って本人の状況を確認したり、ホームに見学に来ていただいたりしている。また、ホームでは職員と話し合いの機会を持ち、工夫を重ねてからサービスを開始するようにしている。体験入居の希望があれば対応できる体制である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が落ち込んでいる時に励ましてくれたり、普段から利用者に教えてもらう場面が多くあり、支え合う関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、本人の思いや希望を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞き、介護計画に反映させるようにしており、職員全員で意見交換しカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行っており、利用者の状況の変化に応じて、カンファレンスを行い計画作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院や介護保険の手続きなど出来る限りのことは支援するようにしている。デイサービス事業を行っており、利用者同士の交流の機会がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望を優先している。受診の付き添いや通院は、ホームが対応しており家族に受診の内容を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けて、早い段階から家族や医療機関等と話し合いを行い、今後の支援策を職員全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に個人情報に関する同意書を交わしている。記録物など、書類の管理は徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や外出など、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、出来る範囲で食事の準備や後片付けを行っている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう、雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認し、対応できるように努めている。毎日入浴したい希望があれば、今後対応していく体制である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物や料理、習字や短歌など一人ひとりの生活歴や趣味などを活かした役割事や楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ、車椅子の方にも積極的に支援し、近所を散歩したり車で買物に出かけたり、ドライブしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で声をかけ合いながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。調査訪問時、玄関や居室には施錠されていないことが確認できた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、利用者も一緒に参加し定期的に避難訓練を実施しており、消火器の訓練を行っている。	○	今後、備蓄品(食料品、飲料水、医療品など)の準備と有事の際に地域の方の協力が得られるよう、さらなる働きかけをして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、定期的に栄養士が献立を確認している。食事や水分の摂取量を毎日記録しており、水分が不足がちな方には、その方が好む物を提供するなど工夫しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明に配慮し、季節感を感じる花を飾るなどしながら居心地良い空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れたタンスやテレビ、仏壇などが置かれてあり、安心出来る空間作りがなされている。		